

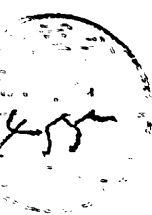
6840

第九三第

| | | | | |
|----|--------|----|---|---|
| 長官 | 局長 (部) | 大臣 | 三 | 保 |
| 局長 | 局長 (部) | 大臣 | 三 | 保 |
| 局長 | 局長 (部) | 大臣 | 三 | 保 |
| 局長 | 局長 (部) | 大臣 | 三 | 保 |
| 局長 | 局長 (部) | 大臣 | 三 | 保 |
| 局長 | 局長 (部) | 大臣 | 三 | 保 |
| 局長 | 局長 (部) | 大臣 | 三 | 保 |

官印官印付(發行)

(發行)



官印

官印

沈船引上ケニ関スル件

林集團

昭和拾七年七月廿日

事務課第八号

陸軍密電

次官ヨリ南方軍總參謀長

林集團軍政部長宛電報案

(暗號)

林蘭貢電第六九號沈船引上ケニ

関ニ當方ニ於テモ所要ノ技術者

派遣スルハキモ各軍トモ現地部隊

技術者、資材、現況、通達、等

現地人及現地資材ヲ以テ銳意

引上ケニ努力中ナルヲ以テ貴

軍ニ於テ毛
二用様引上ケニ着

手セラレ度

右依命

通電先
岡林

八三六

641

昭和拾七年七月卅日

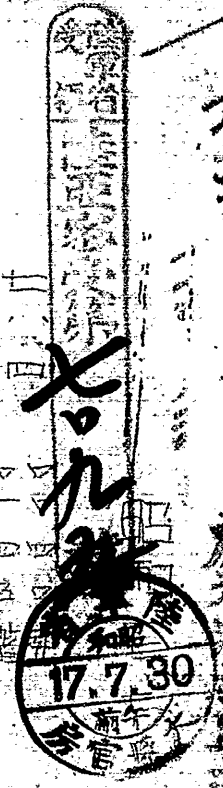
此上トモ現地部隊、現方受持身ヲ以テ之ヲ納ムル事
(持・船舶部隊)
軍

常務

秘電報



スミ



次次 長官宛

林集團軍政部長

林蘭貢電第六九號

一 イラワゴ河に於ける船舶(航空便送付)現在マニラ山

附近八十隻其他六十隻計百四十隻ナリ

二 此船ノ原因ハ簡單ニシテ之カ引上ハ概ネ現地人ヲテ

可能ナルカ如キモ作業ヲ一層迅速ナラシムル為メカ計

畫指導ニ充當スルキ技術者數名ヲ必要トス

0742



三、作業ノ開始ハ減小期ヲ待テ行フモ之ガ詳細ハ為
前項要員至急派遣アリ度

四、右引上船ノ外押収船ハ約二百隻ノ中其ノ大部ハ何モ
大ノ修理ヲ要スニガ為前政府所有ノ船造修
理工場ハ河川船舶用「マングレ」ヨングレ各一
若干ノ修理ヲ要ス「アル」以テ之ガ担当者至急選定
派遣アリ度

五、引上及修繕ニ関スル事業ハ為シ得ル林業貢獻電第一七
號 依ル會社ヲシテ併セ經營セシメ度 意見ナリ

通電先 次長 次官 南方軍總參謀長

終

指

百五

軍務部長

七二六

二宮

大記 依命 馬運 中

大記

次官 兵 文 電 林 集 用 軍 政 部 長 七二四 五元

林 南 豆 電 茅 六 九 号

沈 艇 (ハムラノカ) 引 揚 汁 直 階 等 者 派 返 件

大臣ヨリ

右ニツクテハ内地ヨリ 軍 向 家 ヲ 至 急 派 返 云々

モカトニトトホラ 一 方 現 地 引 揚 汁 直 階 等 者 派 返 件

教 (ハ) 積 聚 的 二 八 如 一

指 送 手 本 二 ト

指 送 手 本 二 ト
電 報
大臣
見 込 せ
ト

